

1 公共施設の再エネと省エネ

市役所本庁舎・西館・研修センター・市民会館・市立図書館の5施設の電力スマート利用計画を進めています。各施設に太陽光発電システムを導入し、発電された電力の余剰分を他の施設へ供給することで、発電電力の有効利用とCO₂排出量の削減を図ります。

CO₂
年間
123t 削減

II
ガソリン車が
615,000km走行＝地球を15周半
するときに排出する量



土日祝に電力使用量が増える図書館や市民会館に、閉庁している市役所本庁舎、西館、研修センターで発電された電力を供給する。

未来のために今できること
― 御前崎市が進めるGX ―

2 AI オンデマンド交通

市では、令和7年10月からAIを活用したオンデマンド交通の実証運行を開始する予定です。AIを活用したオンデマンド交通システムとは、利用者の需要に合わせて運行する乗り合い交通のことです。

本サービスでは、利用者が時間・場所を予約すると、AIが、複数人が乗り合う効率的なルートを導き出し、小型車両が配車されます。

従来の自主運行バスに比べ、利用者のニーズに合わせた運行ができるとともに、利用者全体での合計移動距離の短縮や運行車両の小型化によって環境負荷の軽減にもつながります。



3 地元事業者との連携

新野川・箴川流域の事業者22社で構成される「新野川・箴川の自然を守る会」では、各事業者のカーボンニュートラルに向けた取り組みを共有する意見交換会を実施しています。意見交換会には市職員も参加し、市内事業者の現状や取り組みを把握する機会となっています。



- ・太陽光発電システム
- ・家庭用蓄電池
- ・太陽熱利用システム
- ・クリーンエネルギー自動車の購入に使えます！

5 補助金の交付

補助金名	対象
① 新エネルギー・省エネルギー機器導入促進補助金	市民 一部事業者
② 省エネルギー診断補助金	事業者
③ 中小企業者省エネルギーGX推進事業費補助金	事業者
④ 生ごみ減量・再資源化促進事業費補助金	市民



④ 生ごみ減量・再資源化促進事業費補助金の詳細はP17でもご確認いただけます。

4 ポータルサイト エネSmileタウン

エネルギーに関する理解促進や正しい知識の普及を図るため、本市のエネルギー情報を集約した特設サイト。分かりやすく、誰もが親しみやすい情報が満載です。

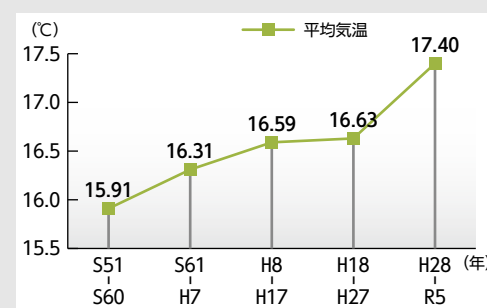


未来のまちをつくるGX グリーン・トランスフォーメーション

地球温暖化が深刻さを増す中、「GX（グリーン・トランスフォーメーション）」という言葉が注目されています。少し難しそうに聞こえるかもしれませんが、簡単に言えば「環境にやさしい社会へ変わっていこう！」という動きのこと。本特集では、GXって何？という基本から、市の取り組み、そして私たちにできることを紹介します。

照 会 GX推進課 ☎0537-1134

御前崎市の平均気温の推移（10年間単位）
（昭和51年～令和5年）



資料：気象庁ホームページ

このままだと未来があぶない！
― 気候変動と私たちの暮らし ―

「異常」が「日常」になりつつある今

近年、「夏が長くなった」「冬でも暖かい」そんなふうに感じたことはありませんか？実はこれは、気のせいではありません。日本を含め、世界中で、気温は少しずつ、確実に上がり続けているのです。さらに、集中豪雨などによる災害が各地で発生するなど、気候の「異常」が「日常」になりつつあります。これらの変化は「地球温暖化」の影響だと考えられており、私たちの暮らしに影響が表れています。

世界気象機関と国連環境計画により設立された組織「気候変動に関する

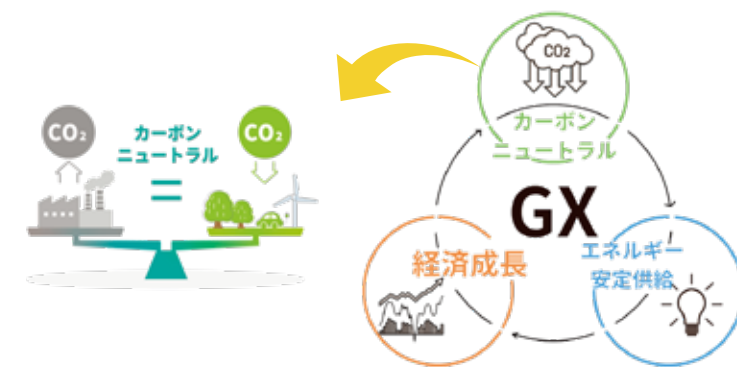
政府間パネル」が発表した「第6次評価報告書」によると、世界の平均気温が今より1.5度以上上昇すると、私たちが経験したことのないレベルの気候変動が現実になるとされています。極端な熱波、洪水、干ばつの発生頻度が高まり、農業や水産業への大きな影響により、食料不足や物価の上昇につながり、経済の混乱を引き起こす可能性があるということです。

生態系にも大きな変化が起こり、動植物の絶滅、森林火災の多発など、自然のバランスが崩れ、私たちの暮らしに大きな影響を与えることは避けられません。

「GX」って何？

昨今における暮らしのデジタル化により、産業部門における電力消費量の増加が見込まれています。現在、日本では発電時に二酸化炭素（CO₂）を排出する火力発電が約7割を占めています。そこで、今、世界で注目されているのが「GX（グリーン・トランスフォーメーション）」です。GXとは「石油や石炭などの化石エネルギー中心の社会からクリーンエネルギー中心の社会へ転換するとともに、カーボンニュートラルや

GX(グリーン・トランスフォーメーション)とは



エネルギーの安定供給、経済成長を同時に目指す取り組み」のこと。その中のカーボンニュートラルとは、排出されるCO₂と吸収・除去されるCO₂の量を差し引きゼロにすることをいいます。つまり、実質的に温室効果ガスを出していない状態のことです。

地球の課題と言われると規模が大きすぎてどこかひとごとのように感じるかもしれませんが、GXを成功させるために欠かせないのが、地域の力と、住民一人ひとりの意識です。

GX×暮らし

補助金の活用が可能！詳細はP5をご覧ください。

生ごみを堆肥に変える「コンポスト」



コンポストは、生ごみを堆肥に変えることで、可燃ごみとして処分する必要がなくなるため、ごみを減量化します。ごみを減らすことは、焼却時に発生する温室効果ガスの削減につながります。出来上がった堆肥は、家庭菜園や花壇などに活用でき、自然のサイクルを身近に感じることができます。



野川 裕美さん
早苗町・利用歴4年

ごみ減量で気持ちも軽く 罪悪感のないエコ生活へ

生ごみが減り、毎週出すごみの袋が軽くなりました。これまで捨てていた野菜くずが堆肥としてもう一活躍してくれるので、捨てる抵抗感が少なくなりました。

クリーンエネルギーの自給自足

● 太陽光発電と家庭用蓄電池



太陽光パネルで発電した電気は、蓄電池にエネルギーをためておくことで、夜間や天候の悪い日にも活用することができます。太陽光発電と蓄電を組み合わせることで、家で発電した電気を効率よく使うことができ、電気代の節約にもつながります。

蓄電池があることで停電中でも冷蔵庫やスマートフォンの充電など日常生活に欠かせない機器を使うことができ、災害時の不安を大きく軽減できます。

もしもに備えたエネルギーの自給自足

● 電気自動車



電気自動車(EV)は、走行中に排気ガスを出さないため、ガソリン車に比べて温室効果ガスや大気汚染物質の排出を大幅に減らせます。また、エネルギー効率が高く、ガソリン車よりも少ないエネルギーで走行できるため、走行コストを抑えられる傾向にあります。

EVは、家庭用蓄電池より大容量のバッテリーを搭載しており、「動く蓄電池」として災害時にも大きな力を発揮します。



下村 武治さん
下岬区・令和4年購入

環境と家計にやさしく 補助金で広がるエコな選択

維持費の面から電気自動車を選択しましたが、「結果的に環境に良い取り組みをしている」ことに満足感を得られています。補助金のおかげで、購入時の金銭的負担が減り、助かりました。

ちょっとした取り組みが地球を救う — みんなで始めるGXライフ —

GX×自然保護

地球温暖化を防ぐカギは、身近な海や森に

大気中のCO₂などの温室効果ガスを減らすためには、「出さない努力」に加えて、「自然の力で吸収してもらうこと」も重要です。「植物や土壌、海などが温室効果ガスを取り込んで大気に戻らないようにためる」ことを「固定化」といいます。

● 海の生態系が吸収し固定化する「ブルーカーボン」



久々生海岸(新谷区)には、「コアマモ」という生物が群生しており、1年間に約0.8tの温室効果ガスを吸収しています。南駿河湾漁業協同組合を中心とした「榛南地区磯焼け対策協議会」の取り組みでは、1年間に約49.1tの温室効果ガスを吸収しています。

写真提供：NPO法人Earth Communication

● 森林などが吸収し固定化する「グリーンカーボン」



市内には豊かな森林が約1,600ha広がっており、年間約3,400tの温室効果ガスを吸収している計算になります。あらさわふる里公園では、園内で間伐した木を炭にして土壌改良用の炭や木酢液として活用することで、温室効果ガスの吸収固定化につながっています。また炭を園内のパーベキューに活用し、資源の循環利用にも取り組んでいます。



赤堀 邦夫さん
あらさわふる里公園

森の恵みをまちの未来に 公園から広がるGXの輪

公園内の間伐や炭の活用がまちや地球の未来につながるため、やりがいを感じています。炭や木酢液は公園で販売しているので多くの人に活用してもらいたいですね。

GX×教育

エネルギー教育

● 市内全小学6年生・中学生



浜岡原子力発電所の見学や電気の特徴、発電方法を学びます。これからの御前崎市や日本のエネルギーについて考えることのできる力を養うことが目的です。

● 市民

エネルギー講演会や省エネセミナーなどを実施し、市民がエネルギーについて学べる機会を提供しています。

雑がみリサイクルアクション

● 市内幼保こども園・小中学校



ティッシュの箱やメモ用紙など、可燃ごみとして捨てられがちな雑がみも、大切な資源であることを啓発する取り組みです。子供たちが各家庭で雑紙を集め、それをリサイクルして作られたトイレトペーパーを園や学校で使えるように配布します。「ごみ」だと思っていたものが資源として生まれ変わり、自分たちの手に戻ってくる体験をしながら、環境保護への理解を深めています。

あなたの家に近い資源物回収場所はどこ？ 「リサイクルマップ」で探して活用しよう

市では、ごみの排出量削減とリサイクル率向上のため、資源物の回収場所を地図に示した「リサイクルマップ」を作成しました。本市は、リサイクル率が県内上位です。引き続きごみの削減に努めていきましょう！

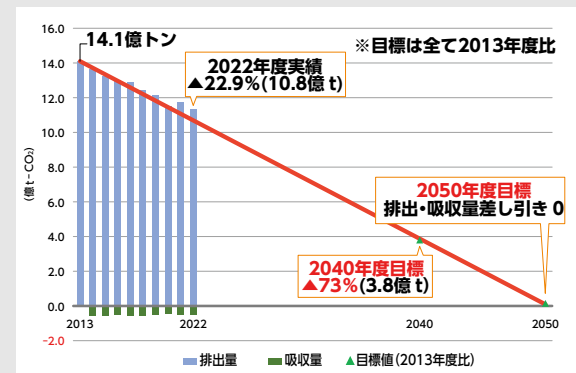
市公式LINEのメニューからも閲覧が可能です



まとめ

本特集では、全世界が抱える課題である地球温暖化を解決するための「GX」についてご紹介しました。地球規模の課題だからといって、「自分には関係ない」と思っている人もいるかもしれませんが、実は私たち一人ひとりの行動が、気候変動のスピードを緩める力を持っているのです。私たちの小さな「気づき」と「行動」の積み重ねが、地球の未来を大きく左右します。GXの目的は、単に二酸化炭素の排出を減らすことだけではなく、新たな産業の創出や地域経済の活性化、

次期削減目標(CO₂の排出・吸収量の差し引き量)



出典：地球温暖化対策計画の概要(内閣官房・環境省・経済産業省/令和7年2月)

丸となってGXに向けた取り組みを進めることで、「ゼロカーボンシティ」の実現を目指していきます。ゼロカーボンシティ 2050年までにCO₂排出量実質ゼロを目指すことを公表した自治体。本市は令和3年2月に宣言した。

一方で、国は、2040年に73%減、2050年でカーボンニュートラルを目標に掲げています。GX推進課では、市民・事業者・行政が一

GX推進課は、行政の取り組みを推進するだけでなく、社会情勢を踏まえながら、市民や事業者の皆さんが地球温暖化対策に取り組みやすい環境を整備することも、大きな役割としています。

令和7年4月1日
組織再編により誕生

GX推進課
石川 勝俊 課長

